

小田原城内高等学校

図 書 館 紀 要

抜 刷

第 12 号



秋	山	信	子
新	海		明
佐	藤	伸	一

小田原城内高校内の植物相（樹木編）

秋 山 信 子
新 海 明
佐 藤 伸 一

本校構内の植物相に関するものは、昭和43年（1968）に本校定時制の生物部によって調査された「小田原城内高校植物誌（樹木編）」が唯一のものである。その後20年間のうちに図書館棟・新館などの増改築により伐栽されたり、新植された樹木も増え校内の植物相も当時と比較して、かなり変化してきたと思われる。そこで、筆者らはあらためて校内の樹木相を記録するとともに、校内に残された身近かな自然を教材として生かすべく、手始めに樹木リストの作成と名札かけを実施することにした。ここでは、樹木リストとそれらの位置図を報告するとともに、20年前の樹木リストとの比較をした結果を述べる。

なお、本稿をまとめるにあたり池田博明氏には標本同定や原稿の校閲を、東京大学農学部 蒲谷肇氏には植物の同定に関して御教示を願った。また、本校1年の小柳由紀子、佐藤めぐみ、谷直子、松岡昌代、三上明子の各氏には樹木の名札かけなどで手伝いをお願いした。ここに御礼申し上げる。

—方法—

調査は1989年10月下旬から11月中旬に、本校構内の樹木について、前述の「植物誌（樹木編）」をもとにして位置図と樹種名を照合し、存否を確認した。不明であった植物はその一部を採集して牧野植物図鑑（牧野、1961；1985）及び日本の野生植物（木本 I・

II）（佐竹他編、1989）によって同定した。

位置図には樹種名とその相対的な大きさを大小の円の大きさにして表示した。なお、北門付近の主な樹木は胸高直径と幹まわりの長さを測定した。

植物リストの順番は日本の野生植物（木本 I・II）によった。

—結果および考察—

今回の調査で確認した樹木は合計で40科86種であった。以下にそのリストを示す。

【裸子植物 GIMNOSPERMAE】

ソテツ科 Cycadaceae

1. ソテツ *Cycas revoluta* Thunb.

イチョウ科 Ginkgoaceae

2. イチョウ *Ginkgo biloba* L.

マツ科 Pinaceae

3. アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.

4. ドイツトウヒ *Picea excelsa* Link

5. ヒマラヤスギ *Cedrus deodara* Loud.

スギ科 Taxodiaceae

6. スギ *Cryptomeria japonica* (L. fil.) D. Don.

7. メタセコイア *Metasequoia glyptostroboides* Hu et Cheng

ヒノキ科 Cupressaceae

8. カイツカイブキ *Juniperus chinensis*

- L. var. kaizuka Sieb.
 9. タマイブキ *Juniperus chinensis* L.
 forma globosa Homib.
 10. ミヤマビャクシン *Juniperus chinensis*
 L. var. sargentii Henry
 11. チャボヒバ *Chamaecyparis obtusa* (Sieb.
 et Zucc.) Endl. var. brerirames Beiss
 12. サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Sieb.
 et Zucc.) Endl.
 13. ヒムロ *Chamaecyparis pisifera* (Sieb.
 et Zucc.) Endl. var. squarrosa Beiss et
 Hochst
 14. アスナロ *Thulopsis dorabrata* Sieb.
 et Zucc.

マキ科 Podocarpaceae

15. ナギ *Podocarpus macrophyllus*
 (Thunb.) D. Don

【被子植物 ANGIOSPERMAE】

◀双子葉類 DIOTYLEDONEAE▶

ヤマモモ科 Myricaceae

16. ヤマモモ *Myrica rubra* Sied. et
 Zucc.

クルミ科 Juglandaceae

17. オニグルミ *Juglans mandshurica*
 Maxim. var. sachalinensis (Miyabe et
 Kudo) Kitamura

ブナ科 Fagaceae

18. ウバメガシ *Quercus phillyraeoides*
 A. Gray
 19. クスギ *Quercus acutissima* Carruthers
 20. アラカシ *Quercus glauca* Thunb. ex
 Murray
 21. ウラジロガシ *Quercus salicina*
 Blume
 22. クリ *Castanea crenata* Sieb. et

Zucc.

23. スダジイ *Castanopsis sieboldii*
 (Makino) Hatusima ex Yamazaki et
 Mashiba

24. マテバシイ *Lithocarpus edulis*
 (Makino) Nakai

ニレ科 Ulmaceae

25. ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.)
 Planch.

26. エノキ *Celtis sinensis* Pers. var.
 japonica (Planch) Nakai

クワ科 Moraceae

27. ヒメコウゾ *Broussonetia kazinoki*
 Sieb.

28. イヌビワ *Ficus erecta* Thunb.

ヤドリギ科 Loranthaceae

29. ヤドリギ *Viscum album* L. subsp.
 coloratum Komarov

モクレン科 Magnoliaceae

30. ホオノキ *Magnolia obovata* Thunb.

31. コブシ *Magnolia praecocissima*
 Koidz.

32. タイサンボク *Magnolia grandiflora* L.

33. ユリノキ *Liriodendron tulipifera* L.

クスノキ科 Lauraceae

34. クスノキ *Cinnamomum camphora*
 (L.) Presl

35. タブノキ *Machilus thunbergii* Sieb.
 et Zucc.

36. ゲッケイジュ *Laurus nobilis* L.

メギ科 Berberidaceae

37. ナンテン *Nandina domestica* Thunb.

ツバキ科 Theaceae

38. ヤブツバキ *Camellia japonica* L.

39. オトメツバキ *Camellia japonica* L.
 var. rosacea Curtis.

40. サザンカ *Camellia sasanqua* Thunb.
41. モッコク *Ternstroemia gymnanthera*
(Wright et Arn.)
42. ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb.
ユキノシタ科 *Saxifragaceae*
43. アジサイ *Hydrangea macrophylla*
Seringe var. *otakusa* Makino
44. ウツギ *Deutzia crenata* Sieb. et
Zucc.
トベラ科 *Pittosporaceae*
45. トベラ *Pittosporum tobira* (Thunb.
ex Murray) Aiton
バラ科 *Rosaceae*
46. ユキヤナギ *Spiraea thunbergii* Sieb.
ex Blume
47. コデマリ *Spiraea cantoniensis* Lour.
48. ウメ *Prunus mume* (Sieb.) Sieb. et
Zucc.
49. モモ *Prunus persica* Batsch
50. ソメイヨシノ *Prunus × yedoensis*
Matsumura
51. サトザクラ *Prunus lannesiana* (Carr.)
Wilson
52. ビワ *Eriobotrya japonica* (Thunb.)
Lindl.
マメ科 *Leguminosae*
53. ハリエンジュ *Robinia pseudoacacia*
L.
54. カイコウズ *Erythrina crista-galli* L.
ミカン科 *Rutaceae*
55. サンショウ *Zanthoxylum piperitum*
(L.) DC.
カエデ科 *Aceraceae*
56. トウカエデ *Acer buergerianum* Miq.
トチノキ科 *Hippocastanaceae*
57. トチノキ *Aesculus turbinata* Blume
モチノキ科 *Aquifoliaceae*
58. イヌツゲ *Ilex crenata* Thunb.
ニシキギ科 *Celastraceae*
59. マサキ *Euonymus japonicus* Thunb.
アオギリ科 *Sterculiaceae*
60. アオギリ *Firmiana simplex* (L.)
W.F. Wight
ジンチョウゲ科 *Thymelaeaceae*
61. ジンチョウゲ *Daphne odora* Thunb.
キブシ科 *Stachyuraceae*
62. キブシ *Stachyurus praecox* Sieb. et
Zucc.
ミソハギ科 *Lythraceae*
63. サルスベリ *Lagerstroemia indica* L.
フトモモ科 *Myrtaceae*
64. ユーカリノキ *Eucalyptus globulus*
Labill
ミズキ科 *Cornaceae*
65. アオキ *Aucuba japonica* Thunb.
66. クマノミズキ *Swida macrophylla*
(Wall.) Sojak
67. ミズキ *Swida controversa* (Hemsl.)
Sojak
ウコギ科 *Araliaceae*
68. ヤツデ *Fatsia japonica* (Thunb.)
Decne. et Planch.
69. キツタ *Hedera rhombea* (Mig.) Bean
ツツジ科 *Ericaceae*
70. オオムラサキ *Rhododendron*
oomurasaki Makino
71. サツキ *Rhododendron indicum* (L.)
Sweet
72. ドウダンツツジ *Enkianthus perulatus*
(Miq.) Schneider
73. アセビ *Pieris japonica* (Thunb.)
D. Don

モクセイ科 Oleaceae

74. ムラサキハシドイ *Syringa vulgaris* L.

75. キンモクセイ *Osmanthus fragrans*
Lour. var. *aurantiacus* Makino

キョウチクトウ科 Apocynaceae

76. キョウチクトウ *Nerium indicum*
Mill.

アカネ科 Rubiaceae

77. クチナシ *Gardenia jasminoides* Ellis

78. ハクチョウゲ *Serissa japonica* (Thunb.)
Thunb.

スイカズラ科 Caprifoliaceae

79. サンゴジュ *Viburnum odoratissimum*
Ker-Gawler var. *awabuki* (K. Koch)
Zabel

《単子葉類 MONOCOTYLEDONEAE》

ヤシ科 Palmae

80. キャナリーヤシ *Phoenix canariensis*
Chaub.

81. シュロ *Trachycarpus fortunei* (Hook.)
H. Wendl.

ユリ科 Liliaceae

82. ナギイカダ *Ruscus aculeatus* L.

リュウゼツラン科 Agavaceae

83. アオノリュウゼツラン *Agave ameri-*
cana L.

84. リュウゼツラン *Agave americana* L.
var. *variegata* Nichols.

85. ニオイシュロラン *Cordyline australis*
Hook. fil.

86. アツバキミガヨラン *Yucca gloriosa* L.

以上の樹木の位置図を図1に示す。これを見ると本校の北門付近の斜面には比較的大きな樹木が集中することがわかる。これらの樹

種はクス・タブ・カシなどであり、いずれも西湘地区を代表する暖帯林に属するものである。本校内では唯一の自然植生と考えられるので、今後は保存林として手を加えないようにして残すべきであろう。参考までに表1に北門付近の主な樹種とその胸高直径および幹まわりの測定値を示す。

一方、正門や中庭付近の樹種はサンゴジュ・カイヅカイブキ・ドウダンツツジ・ドイツトウヒなどの園芸種が中心である。これらの樹種は本校が建設された時の造園事業として昭和37年(1962)頃に植えられたものである。植栽されたものではあるが注目すべきものとしては、新館連絡通路わきにあるユーカリの大木、家庭科室北側のナギ、定時制昇降口右側のメタセコイアなどがある(図2)。このうち、メタセコイアは今世紀初頭に中国で発見された「生きている化石」のひとつとして知られている。日本では昭和25年(1950)にカリフォルニア大学のチエネー教授より贈られた苗木を増やしたものが全国の学校施設や公園に配布されて現在に至っている。

次に、20年前にあった樹種で現在は見られなくなってしまった主なものとしては、東側のテニスコートに面した斜面上手のネズミサシ・ニワトコ・オリーブ、家庭科室の脇のポプラ、旧テニス部室裏のマメザクラ、グラウンド東南のセンダン、北門グラウンド下のハゼノキ・マユミ・ガマズミなどがあげられる。逆に、その後に植えられた主なものとしては、メタセコイア、家庭科室北側のカクレミノ・トチノキ、新館南東のタイサンボク・デイコなどがある。なお、現在は図書館棟の南にあるゲッケイジュは20年前にはテニス部の脇(現在の新館の位置)にあったものが移植されたのかも知れない。

20年前の本校の植物相と現在のそれとを比較して明らかなことは、図書館棟や新館といった建物が建つごとに付近の植生が一新するということである。建築に伴う伐栽や新植はやむを得ないことではあるが、その計画にあたってはできる限り、自然植生や大木を保護して伐栽を回避することや、新植する場合にもサクラ・ウメ・サンゴジュ・ヒムロといった園芸種ばかりを植えるのではなく、本校の位置する気候風土にふさわしい樹種、たとえばシイ・カシ・クス・カクレミノ・ヒサカキといったものを選定して植えることが望ましいだろう。現在工事中のクラブ部室の建設に伴

う新植計画がもしあるならば、北門付近に残された城内高唯一の自然林との調和をはかった植栽を是非とも実行してもらいたいものである。

引用文献

- 牧野富太郎、1961. 牧野新日本植物図鑑.
1060p. 北隆館、東京.
———、1985. 学生版原色牧野日本植物
図鑑. 396p. 北隆館、東京.
佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫、1989.
日本の野生植物木本編 I・II. 321p.
平凡社、東京.

表1. 北門付近の主な樹種の胸高直径と幹まわりの測定値
(表の番号は右図を参照)

No.	樹種名	胸高直径(cm)	幹まわり(cm)
1	クスノキ	72.6	228
2	タブノキ	99.4	312
3	クスノキ	54.5	171
4	ウラジロガシ	10.2	32
5	ミズキ	62.4	196
6	ウラジロガシ	23.9	75
7	ウラジロガシ	22.6	71
8	ウラジロガシ	47.1	148
9	サクラ	36.0	113
10	サクラ	33.4	105
11	ヒマラヤスギ	30.6	96
12	ミズキ	60.8	191
13	クマノミズキ	40.8	128
14	オニグルミ	42.0	132

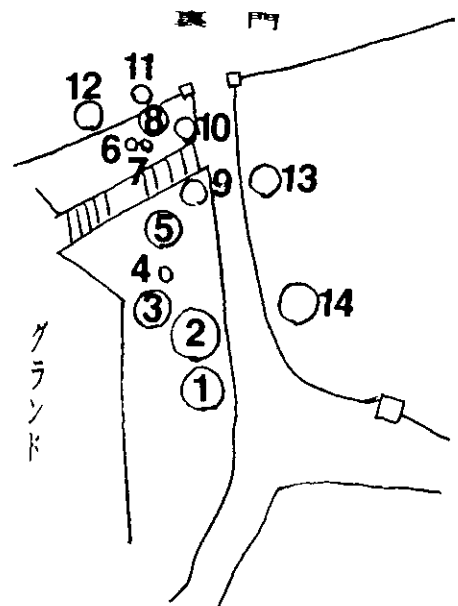
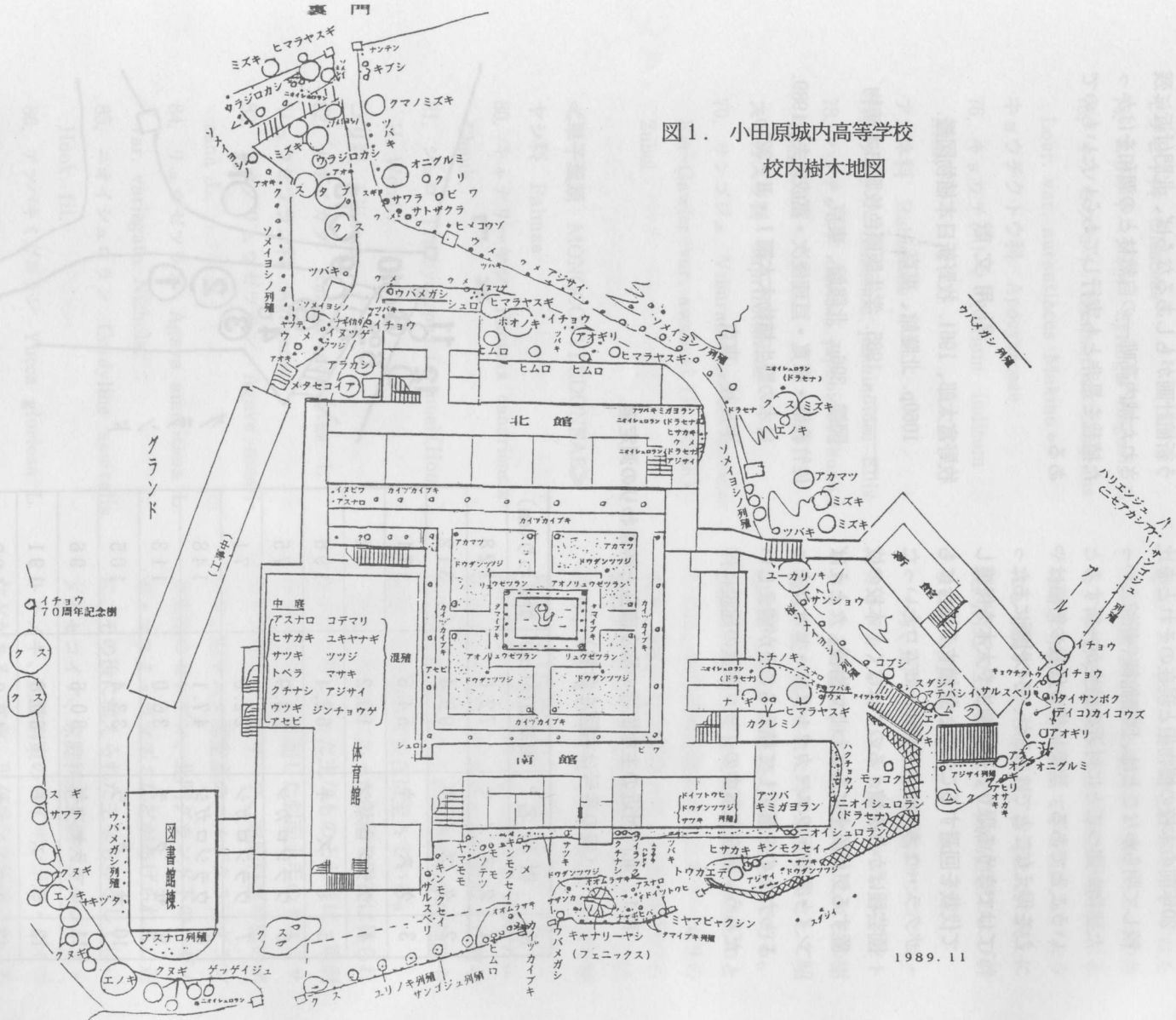
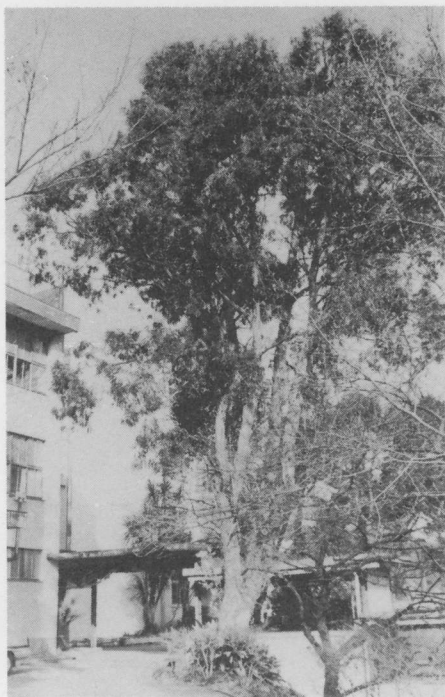


図1. 小田原城内高等学校
校内樹木地図



1989. 11

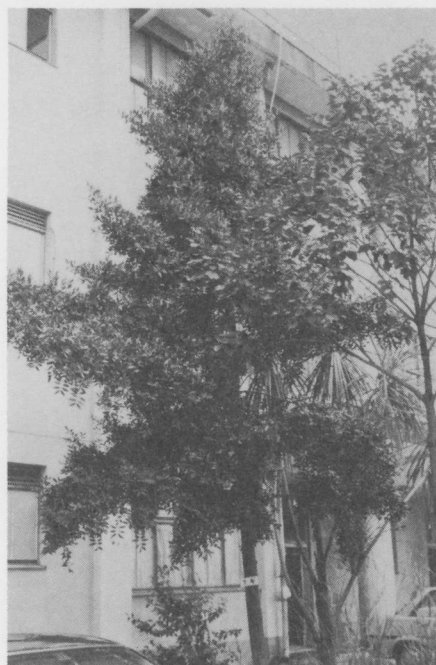
図2



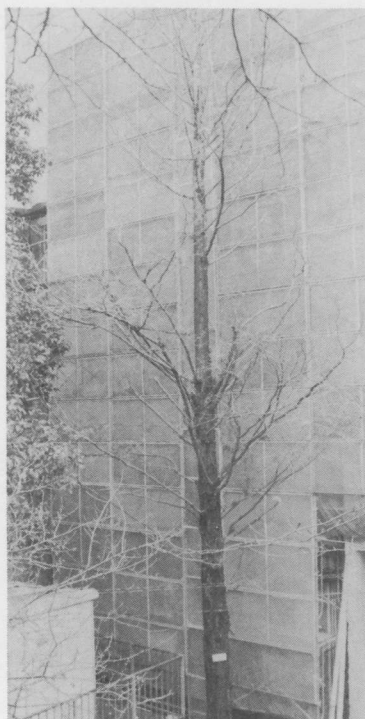
西昇降口前のユーカリノキ

〔1990.1.22 撮影〕

西昇降口左側のナギ



〔1990.1.20 撮影〕



北館東側のメタセコイア

春には芽ぶき、秋まで葉を茂らす

〔1990.1.20 撮影〕